

水産發展のため協力せよ 船舶の多いのに驚いた

GHOヘリントン部長談

打ち續く不漁のため最近、小名浜町の景気が低調になつたとはいへ、東北唯一の漁港、商港、及び避難港としての特長が一般に認識せられ、近き将来に周辺町村を合併して小名浜市への膨張と發展も約束せられて前途はまことに洋々たるものがある、地元出身の縣議員大井川正巳氏及び小野義一氏は政黨を超越して郷土發展のため縣議會で活躍しているという朗報も屢々耳にし、縣當局者の往來も旺んになりつゝある時GHQの水産部長ヘリントン氏もまた現地視察のため來町したので本社は同部長が視察中の江名町に記者を派遣し特別會見を申込み、以下は本社記者、長瀬兩記者の現地報告である。

連合軍總司令部、天然資源局水産部長ヘリントン氏は資材課長永田氏を帶同して十日東京出發、途中、水戸、那珂湊射撃場、久慈平磯、平潟、大津を視察して十二日小名浜に來町、吉田屋旅館に一泊、十三日旋網漁船に乗乗して操業を視察、江名町中之作遊藤伸敏氏方に休憩後、同地に一泊、十四日江名町を視察して、午後三時五分歸京したが同部長は本社記者に對して次の如く語つた。

今度來町したのは水戸射撃場の損害賠償の見積、茨城、福島等常磐地方の漁業の實情、水揚減少の理由、資材の状況(ロープ、油、綿糸等)の地方民主化の施設及び漁業地の問題をとり上げ漁民の福祉を増進するためである、江名は小さい町に拘らず漁業が非常に秀れた先見の明がある事は誠に喜ばしい、また小名浜は江名と同様な感想をもつたが、特に驚いたのは近代化の運賃が船があるのに多くの船が現地の諸君が協力して發展計畫を立てているのは全く心強い、また自分の來町に諸君が心をこめて迎へて呉れたのは非常に嬉しう、

港灣を擴充し 河川を改修する

井關縣土木部長言明

井關縣土木部長は四倉が開港せる縣の觀光連合協會の總會に出席する途中來町、過日の水害状況及び港灣の現状を視察したが、『小名浜港の特色を生かして、この間に發展させるか』及び『埠頭と港灣會社の對立を如何に協調するか』という記者の質問に對して小名浜港の特色として『漁業、商港の二つをとり上げ、荷揚場荷揚設備を擴充し漁商兩者の健全なる發展を促進する』と答へたが、町民の理解と熱心な協力のもとに圓滿な解決を望むと答へたが、町民の聲を水野町長から陳情してゐる藤原川、小名川、矢田川の今後における水害防止は町長、町會議長等立會の下に予定外の視察をして、改修の必要を認めたとの積極努力すると言明した。

海上保安廳 安廳の生れるまで

部長 遠山 武夫

昭和二十年終戦後の陸上には連合軍の支持の下に警察機關があつて曲りなりにも大きな混亂は回避されてしまつたが、海上に於ては、海軍が潰え去つた後、これに代る何

等々の機關も機能もなく全くの無警察、無秩序の暗黒時代が現出しつゝあつたのであります。昭和二十一年には、大陸から陸續として、邦人の引揚が行はれ、大陸性傳染病侵入の危険に晒されるばかりでなく、かつての日本經濟圏であつた朝鮮、台灣、沖繩、その他の地域から、その後、生じた経

しく思つてゐる。なお同部長は本誌記者の質問に關し本要次の如く答辯した。

問 視察した結果、今後の水産關係をどう考へるか。

答 まづ最も基本になるのは人間であるので人間の教育をしなければ、すべてのものが、おろそかになる。それで教育を高め特に漁民に新しい漁業法を納得させよう希望する。

病氣を苦しむ
投身自殺

豊間町翠ヶ丘國立病院に入院中の安部ミツ代さん(二七)は病氣を苦にして去る十三日夜十一時より十四日朝五時頃までの間に全町海岸で投身自殺した。

泉村で開く
報徳講演會

石城郡町長會、石城郡町議會議長會主催、福島縣報徳會後援の報徳講演會は泉村公民館に於て来る二十三日より二十五日まで行われ、講師は大日本報徳社講師太田良次氏、受講者は、町吏員、町會議議員、報徳社同志、中堅青年となつて

胎兒の死体
発見さる

十四日午後六時五十分頃小名浜町小名川橋附近に妊娠六ヶ月位に於ける胎兒の死体を発見したが原因不明のため小名浜町署で直ちに捜査を開始した。

魚菜市況

(小名浜青果物市場)
(小名浜漁協組市場)
(卸賣、單位買)

とまと	五〇一〇〇圓
ねぎ	八五〇〇圓
なす	四五〇〇圓
さとう芋	一三五〇圓
馬鈴薯	四五〇圓
南瓜	三〇〇圓
きゅうり	六〇〇圓
ごぼう	七五〇圓
西瓜	二〇〇圓
みょうが	一八〇圓
玉ねぎ	一五五〇圓
まめ	一七〇圓
市況一品薄	一七〇圓
二六五	二七〇圓

天氣概況

今晩は北よりの風よ
い天氣處によりわか
雨

明日は南の風朝のうち
は曇りがち霧がかかる
處あり、日中はよい天
氣、夕刻處によりわか
か雨海上はおだやかだ
が明朝は霧、日中風波
強く小型漁船は注意

海上航行の安全を確
保する爲に、先づ(海)
の正体をたかみ、いろ
いろの海洋の調査、測
量、海象の観測をして
航海者に完全な指針を
提供しなければならま
せん、航海に必要な種
々の圖誌、例えば水路
誌、港灣誌、潮汐表、天
測略図など澤山の書誌
を編さん発行し、陸岸
や海底の様子や變化を
調べる研究並に測定し
て海圖を作り、航路の
障害物や危険物に對し
てはその都度告示をも
つてこれを知らせる

海上保安廳は、上述
の經過をたどり、運輸
省海運總局の海運局、
船舶局、船員の關係事
務の一部や灯台局、水
路部を統合せ、運輸省
の外局として發足した
のであります。その
しごとの内容は極めて
廣範圍に及ぶのであり
ます。

以下、その概要を列
記致しますと

1 水路業務

2 海上保安廳

3 船舶業務

4 船員業務

5 燈台業務

6 航路業務

7 航海業務

8 海象業務



常磐交通自動車株式會社 小名浜營業所 所長 野崎隆之輔 下町 電話一三八番	小名濱造船所 所長 藁谷寅之助 榮町 電話一九五番	小名濱内燃機 製作所 所長 小野正雄 榮町 電話二六六番	磐城貨物自動車株式會社 小名濱第一營業所 所長 菅原眞一郎 定西 電話一九四番	磐城貨物自動車株式會社 小名濱第二營業所 所長 金成利惣太 中通リ 電話八八番	日本興業株式會社 小名浜營業所 秋元且吉 小名浜町本町	株式會社亀井商店 小名濱支店 丸八鐵工所 倉兼常八 古港 電話一七六番	株式會社関彰商店 小名濱支店 林鐵工所 林 林平 榮町 電話三二番	日本海洋株式會社 小名濱出張所 所長 本館誠一 辰巳町 電話三七七番	日本盤回送株式會社 小名濱事務所 所長 秋山 仁 辰巳町 電話四三六番	鈴木鐵工所 鈴木義雄 古港 電話三五三番
--	---------------------------------	---------------------------------------	--	--	--------------------------------------	---	---	---	--	----------------------------